

★ 正真正銘 & 本物の美人シンガー ★

イーデン・アトウッド [Eden Atwood]

1969 年米国テネシー州メンフィス生まれ。父親は作曲・編曲家のハブ・アトウッド。6 歳からピアノ、高校時代にクラシックとジャズ・ヴォーカルを学び、モンタナ大学では演劇を専攻。その後、シカゴの音楽院でピアノを学び、プロ歌手としてデビューを果たしたイーデン・アトウッド。写真で見た通りの美貌と 178 センチの長身を生かして、女優・モデルに転身し、TV ドラマへ出演の他、ニューヨークやロサンゼルス〜パリなどでも活躍した時代もあったが、音楽・歌い手への情熱・夢は断ち切れず、1992 年に自主制作したアルバム『トゥデイ』がコンコード・レコードに認められ、見事メジャー・デビューを果たすという経歴を持つ。私生活では 5 歳の時に両親が離婚。19 歳の時に音楽家であった父親が自殺。2007 年には声帯にできた腫瘍の除去手術を受けるという幾多の困難を乗り越えて来た深い人生経験もその歌声に表れている。間近に控えた新作のリリースと 11 月の来日を前に、貴重なインタビューが実現した！取材 & 文：加瀬正之



♪ 5 年振りのニュー・アルバムとなる『ターン・ミー・ルース』のリリースを控えてどのような気持ちですか？

アルバムの仕上がりにとても満足しているし、とても幸せな気分よ！アルバム全体を通して私の視点や展望がとても良く反映されているし、私のプライベートな部分もとても良く表現されていると思うわ。

♪ レコーディングの時は靴を脱いで素足で歌ったと聞いていますが、何か特別な思いがあったのですか？

自由にリラックスした気分で歌いたい時の一つの方法として、靴を脱いで歌うことはとても良いアイデアなの。私は歌う時に靴と一緒に全てのものを脱ぎ捨ててしまうような、ありのままの自分であるような、そんな感覚を掴もうと考えていて、そういうアイデアが好きなの。

♪ 『ターン・ミー・ルース』を聴かせてもらいましたが、あなたの声も素晴らしいし、13 曲全て楽しめる作品ですが、今回の選曲はどのようにされたのですか？

今回は私がずっと大好きだった曲や長い間歌い続けてきた思い入れのある曲を選んでみたのよ。

♪ 日本盤のボーナス・トラックにもなっているあなた自身が作詞を手掛けた『トゥルー・ノース』も素敵な曲ですが、日頃から作曲や作詞もされているのですか？

曲はいつもたくさん書き溜めていて、曲を書くことでとても良い気分になれるの。作曲や作詞は私的なこと、私自身のことを歌うということにもなるし、私自身にとって良いチャレンジにもなると思うわ。

♪ レコーディングの時に特に苦労した曲や特別気に入っている曲などはありますか？

どの曲が一番難しかったかは分からないけれど、一番のお気に入りの曲は多分一曲目の「ホーム」かな。この曲

は私が少女の頃から歌い続けて来た曲だし、ようやくレコーディングすることができた曲なの！

♪ 『ターン・ミー・ルース』という新作のタイトルも素晴らしいですが、これはあなたのアイデアですか？ また、どのような思いで付けたのですか？

この『ターン・ミー・ルース』というタイトルは、「Don't Fence Me In」という曲の歌詞の一部から付けたのよ。何からもうんじがらめな状態にはなりたくない…、何からもう束縛されたくない…、私自身でいるために私を自由にさせて！というような意味なの。

♪ ファースト・アルバム『Today』は 1992 年にリリースされましたが、その頃と比べてあなた自身のヴォーカル・スタイルや感情面などで大きな変化を感じますか？

今は以前よりも低いキーで歌っていて、あれから私自身もいろいろな経験を積んで来たことで、そういう経験自体も歌に表れていると思うわ。

♪ 今年 3 月のレコーディングでは、新作 2 枚分の曲を録音して、その第 1 弾が今回の『ターン・ミー・ルース』と聞いていますが、もう 1 枚の作品について差し支えない範囲で教えてもらえますか？

今回のレコーディングではとてもたくさんの楽曲を録ったの。でも、全ての曲を一枚のアルバムに収めることはできなかったから、更に楽曲を録音したのよ。だから、次のアルバムは私の考えや想いを伝えるべく選んだ楽曲を集めた『ターン・ミー・ルース』の続編的な作品になるだろうし、私のオリジナル曲も増えていると思うわ。

♪ デビュー前に 8 年間クラシック・ピアノを学んでいたそうですが、今後ピアノを弾きながら歌うというようなアイデアも考えているのですか？

ピアノを弾くことは大好きだけど、歌を歌う時は私の歌を聴きに来てくれているお客さんたちの姿や表情を見たいし、みんなと一つになりたいの。だから、ピアノは私自身で楽しむだけにしているわ（笑）。

♪ あなたのお父さんはフランク・シナトラやナット・キング・コールたちとも仕事をしたソングライター&アレンジャーと聞いていますが、お父さんから強い影響を受けましたか？ また、小さい頃に聴いていた音楽や当時お気に入りだったミュージシャンは誰ですか？

小さい頃はエラ・フィッツジェラルドとサラ・ヴォーンが好きだったわ。勿論、父親の演奏を聴くことも大好きだったし、私にとって音楽の面で一番影響を与えてくれた人でもあるし、良き指導者でもあったからね。

♪ テネシー州のメンフィスで生まれて幼少期までメンフィスで過ごしたそうですが、その当時のメンフィスの音楽事情やジャズ・シーンはどのような感じでしたか？

私の故郷でもあるし、メンフィスは大好きよ。幼い頃に両親が離婚したこともあって母親の故郷のモンタナ州に移ったんだけど、メンフィスに残った父親と暮らす時期もあったりして16歳まで住んでいたわ。メンフィスの音楽シーンは生々しいというか、リアルで、とても刺激を受けたわ。

♪ これまで歌手としてホテルや一流クラブで歌う傍ら、TVドラマへの出演など俳優やモデルとして活躍していましたが、その頃も常に歌手として成功を収めることを夢見ていたのですか？

一番最初は女優になりたいかったんだけど、ミュージシャンとしての自分をもっと出していかねばならないと感じたの。今でも演じることは大好きなんだけどね。

♪ 本誌『The Walker's』の前号（Vol.17）のインタビューはバリー・ハリスでしたが、バリー・ハリスはあなたの好きなジャズ・ミュージシャンの一人だそうですね。

残念ながら共演したことはないんだけど、バリー・ハリスのピアノは不安や苦悩といった感情ではなくて、喜びや幸せを感じさせてくれるところが素晴らしいし、大好きよ！それに、とてもソウルフルだしホンモノだと思うわ。

♪ 1996年に「富士コンコード・ジャズ・フェスティバル」出演で初来日を果たして以来、1997年と昨年2008年にも来日されていますが、日本の印象はいかがですか？



日本の歴史や文化は大好き！日本の古い物も素敵だし、歩いているだけで歴史を感じられる場所もたくさんあるでしょ。私の親友の一人は日本人なんだけど、彼女を通してより深く日本の文化を知ることができるのよ（笑）。

♪ 11月から12月にかけて日本でCD発売記念ツアーが予定されていますが、今はどんな気持ちですか？

11月に日本に行って歌えることはとても楽しみだし、今からとても興奮しているわ！前よりも上手く歌うことができると思うし、日本の皆さんの前で歌手として成長した私の姿を見せることができるなんて本当に幸せ！

♪ あなたの夢や目標を教えてください。

平和で穏やかにありのままの自分でいられるようになること。そして、私の歌を通してたくさんの人たちに喜びや愛の思いやりの気持ちを伝えていくことね。

♪ 『The Walker's』の読者にメッセージを頂けますか？

新作『ターン・ミー・ルース』は私自身も本当に好きなアルバムだから、ぜひ日本のファンにも気に入ってもらえたら嬉しいわ！11月に日本で歌うのが待ち遠しいし、新しい友達も作りたいと思っているの！

【Eden Atwood Website】 <http://www.edenatwood.com>

注目の女性シンガー＝イーデン・アトウッドの会心作！



ターン・ミー・ルース
イーデン・アトウッド

SSJ: XQAM-1512
¥2,800 (tax in)
2009.8.19 In Stores!

* P10にレビュー掲載！

【イーデン・アトウッド 来日公演 2009】

11/25 (水) 富士	ケルン	12/4 (金) 東京	Tokyo TUC
11/26 (木) 京都	ラグ	12/5 (土) 東京	クリスタル・ヨットクラブ
11/27 (金) 大阪	Jazz On Top		(シナトラ・ソサエティ会)
11/28 (土) 北九州	レトロ・ホール	12/8 (火) 甲府	コットン・クラブ
11/30 (月) 岡山	ルネス・ホール	12/9 (水) 東京	Tokyo TUC
12/1 (火) 高知	カルテック		(谷口英治クインテット
12/2 (水) 名古屋	Lovely		とのダブルビルング)
12/3 (木) 豊田	ニューヨーク・パバ	12/10 (木) 藤沢	Interplay
	(カバハウス)	12/12 (土) 前橋	G Face Cafe